

声で届ける 広報おいそに込めた想い

毎月「広報おいそ」を朗読録音して、目が不自由な方にお届けしてる「声の広報」をご存知でしょうか。声の広報はボランティア団体「ひびき」の皆さんの協力のもと作成しています。

問政策課 内線207



「ひびき」代表 小林 佳代子さん

私たちには「目で見る広報」と「耳で聴く広報」は、利用者の方にとって同じ情報が得られる物でなければならぬ、という想いがあります。

例えば、以前から表やグラフなどは、読み方を様々に試行錯誤してきましたが、最近では、目で見てパッと情報が入ってくるように、グラフやイラストを活用した記事が多くなってきました。そのまま数字や文字だけを読んでしまうと伝わらないのではと考え、さらに工夫を重ねています。一語一句を間違えないように読むことは大事ですが、利用者の方が分かりやすい表現を目指しています。

また、裏表紙にあるカメラスケッチの写真も、利用者の方に想像を膨らませて楽しんでもらえるための思いから、どのような情景なのかを伝える説明を入れています。

利用者の方が、まずは町の情報をきちんと受け取り、さらに広報を楽しんでもらえるように、活動していきたいと思っています。

利用者の声

目が見えづらくなってから、以前は使えていたインターネットも使えず、町の情報が全く分からなくなっていました。

私は全部が見えないわけではないので、広報も読めることには読めますが、とても時間がかかってしまい、読み終えた後には、もう情報が古くなってしまっていることも多くありました。そんなときケアマネジャーさんから、「声の広報」があると教えてもらい利用を開始しました。

毎月自宅にCDが届き、娘が準備してくれたCDレコーダーで聞いています。今まで分からなかった町の情報が分かるようになりとても嬉しいですし、以前よりも町に詳しくなった気がします。今ではラジオ代わりに聞いています。

「声の広報」にはとても感謝しています。

利用方法

▼対象 目が不自由な方

▼形式 CD

▼発送時期 月末（最新号のみ）

過去の号は、図書館で貸出しを行っています。

▼発送方法 郵送（第四種郵便物）

▼利用料 無料

▼その他 録音CDは図書館でも貸出しを行っていますので、ぜひご利用ください。

また、ご家族やお知り合いに必要な方がいましたら、ぜひご紹介ください。

声の広報ができるまで

①読み方の事前確認や
分担の決定

校了後の原稿を元に記事の読み方を確認します。人名や地名などは特に間違えないように町担当者に確認します。その後、ページごとに担当者を決定して原稿を配布します

②録音

担当ページを各自自宅で録音します。コロナ禍前は、全員が集まり話し合いながら録音していましたが、現在は、インターネットや電話を利用して意見交換し、グラフや写真などをどのように伝えたら分かりやすいかを考えています。

③編集

各自が録音作業したものを集め、つなぎ合わせます。聞きづらい部分がないかなどの最終確認を行います。

④ダビング

完成した音源をCDにダビングします。CDには題名を点字で表記しています。

⑤発送

作成したCDを利用者へ発送します。